

SDGs 4.7 学習指導案

氏名	今井純子	所属	順天堂大学国際教養学部
実践授業科目	English for Global Citizenship II	対象者属性	国際教養学部 2学年 60名 x 2回 (計120名)
実施期間	2018年10月5日(金) 1限・2限 (各90分)		

〈実施概要〉

<p>1. 単元名(授業名) English for Global Citizenship II 後期オリエンテーション: World 2030</p>	
<p>2. 教科・領域との関連性 本学部大学2年生を対象とした必修科目である English for Global Citizenship I(前期)では、主に、国内における地球的課題を、続編にあたるEnglish for Global Citizenship II(後期)では、視点を外に移し、世界規模での地球的課題を扱っている。本学部の設立と同時に本カリキュラムが始まって4年、これまでSDGsについては特に扱ってこなかったが、SDGsを関連づけることにより、より効果的な学習内容の意義づけや学習の動機付けが行えるのではないかとという発想に至った。</p>	
<p>3. 取り扱う学習領域とSDGs各ゴールとの関連性 本年度前期は、国内における地球的課題としてインバウンド・ツーリズムとジェンダー問題を扱った(他年においては、教育、人口問題を扱ってきた)。後期は、気候変動、貧困、平和と紛争といった世界規模な地球的課題を扱う予定である。本時では、ジェンダー(SDGs 4, 5, 10)、気候変動(SDGs 13, 14, 15, 6, 7)、貧困(SDGs 1, 2, 3)、平和と紛争(SDGs 16, 17)がSDGs各ゴールと強く結びつくこと、その他SDGsゴールについても他科目で学んでいるであろうということ、また全てが相関するということを強調することを目指した。</p>	
<p>3-1. 取り扱う学習領域とSDGs4.7との関連性 本学部では、設立当時から、グローバルシティズンの育成を目指し、文化的背景や能力の多様性を重視した少人数クラスによる協働学習、発信型課題解決、自律学習支援を推進するため、教員2名による週4日の必修英語の授業を行ってきた。1年では異文化コミュニケーションを、2年では地球的課題を学ぶ内容重視の英語教育を進めてきたが、年月が過ぎ変化を遂げた部分も散見される。本時は、様々な協働学習や自律学習の要素を取り入れた合同授業を行い、上記基本概念の重要性を再認識することを狙いとする。</p>	
<p>4. 実施理由・背景 当該科目においては、前期から後期への学習内容の移行、共通カリキュラムの意図の担当授業者への伝達、学習者のコラボレーションの機会や自律学習の減少が年々課題となってきた。本時では、それらの課題の存在を前提として、設立当初よりカリキュラム運営に携わってきた実践者(本年直接は授業を担当していないが、後期オリエンテーションという形で授業実践を行う。実践における直接的目的は、SDGsの観点の紹介、当該科目での学習内容との関連づけ、イシューログ(英字新聞や雑誌を選択し、重要単語のリストや要約とコメントを英語で記録する定期課題)の話題提供、自律学習の動機付け、学期末の課題の紹介の他、新任教員を含む授業者に対し、本時のテーマを継続的学習につなげるためのオプションの提示である。長期的には、本時及び今学期の本科目の状況を踏まえ、来年度移行に予定されているカリキュラム改組に伴う教育改善につなげたいと考えている。</p>	
<p>5. 実施にあたっての学習目標 (SDGs4.7に掲げる、ESD/GCED及び「持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得する」に関連して)</p> <p>① SDGsについて知る。 ② 2030年の自分、仲間、社会にむけての身近なゴール、当科目や本学部での他科目の学習内容、個々の体験を、SDGsに結びつけて考える。 ③ 17の目標の相関性を考え、様々な学習内容の重要性や関連性を捉えなおす。 ④ 当科目の後期のプレゼンテーション(ポスター発表)、ライティング(リファレンスサマリー)の課題を知り、問題解決に向けてのアクションプランを考え始める。 ⑤ SDGsに関する教材やアクティビティーについて知り、各クラスに戻った際の授業におけるリーダーシップの発揮と自律学習に繋げる。 ⑥ 通常クラスにおいて接することの少ない他のクラスの学習者と交わり、学習到達度の枠を超えた、協働学習や学習交流を行う。</p>	<p>育成する資質・能力(コンピテンシー)</p> <p>Cognitive (認知領域) SDGsについての知識(①);身近な事象とSDGsを結びつけ、目標の関係を論理的に考える力(②、③);本科目の意義と課題の把握(④);様々な情報源からのSDGsについての必要情報の獲得(読解)と選択、整理、共有能力(主に展開1~4)</p> <p>Social&Emotional (社会情動) 地球規模的課題についての学習意欲;倫理観;課題解決に向けたアクションプランの構想</p> <p>Behavioural (ふるまい・行動) 態度、判断力、GRITなど 他者の理解と協働;自律的な学習習慣</p>
6. 評価基準例	<p>① 認知領域 SDGsの基本概念、本科目で扱うテーマ、学期末の課題について理解できている。</p> <p>② 認知領域 各目標の関係性や身近な事象・体験とSDGsの関連性について、論理的に考えることができる。</p> <p>③ 認知領域 アクティビティーを通して、必要情報の取捨選択と整理をし、他者に伝えることができる。</p> <p>④ 社会情動 地球規模的課題について、倫理観、共感性、意欲を持った上で、アクションプランを立てることができる</p> <p>⑤ 行動 地球規模的課題について、他者を理解・尊重し協働の雰囲気を作りながら、学びを進めることができる。</p> <p>⑥ 行動 本時ならび本科目の内容について、意欲を持ち、各自の学習計画をたてることができる。</p>

7. 展開

① 本時のねらい

時間配分	項目	問い	アクティビティ	指導ポイント	使用教材
授業前	【会場設定】		教室の壁3面にSDGsのロゴを貼り、授業の雰囲気作りを行う。スライドに座席位置を指示する。	SDGsのロゴの掲示物は、後のアクティビティで各目標のステーションの役割を果たす。合同の特別授業として行ったため、担当教員の学生出席の把握の目的から、クラス毎の座席指定を行った。	PPT p.1
0:00-0:03 (2分) (1分)	【前置き】 趣旨説明 本時の目標	Why Me Today? Your Goals Today	実践者が合同授業を行う趣旨を簡単に説明する。 本授業における3つの目標(①SDGsについて知る; ②2030年にむけてのアクションプランを考え始める; ③後期の課題について知る)を伝える。	本実践は、大学2年生を対象とし、当該年度において授業を担当しない教員が、少人数クラスを集めて合同で授業をするという変革的な設定であったため、簡単に趣旨説明と学習目標を掲げた。	PPT p.2 (表紙) PPT p.3 PPT p.4
0:03-0:13 (10分)	【導入1】	What are SDGs?	対象学生の前知識を把握するため、SDGsについて聞いたことがある学生に挙手をさせる。その後「ピコ太郎x外務省(SDGs)PPAP」の動画を流す。基本情報をスライドで説明し、共通認識を図る。	挙手した学生がいた場合は、動画視聴後に詳しく答えてもらう。挙手した学生がいなければ、動画の印象を数名に聞く。継続学習のオプションとして、オリジナルバージョンのSDGs PPAP作りを提案する。	PPT slide p.5 外務省xピコ太郎 You-tube 動画 PPT slide p.6
0:13-0:23 (10分)	【導入2】	What is Sustainable Development?	持続可能な開発とはどういうことなのか知るため、国連によるSDGsの紹介動画を流す。視聴後、近くに着席する学生とペアまたは小グループで感想を共有する。動画の要点をスライドで説明する。 ワークシート1の表に載せた映像のスク립トに使われたAcademic Vocabularyに注目させる。各クラスでのディスカッションクエストを継続学習のオプションとして提示する。	時間に制限があったため、日本語字幕入りのバージョンを授業実践では使用したが、授業外学習では、字幕なしオリジナル、英語字幕入り等のバージョンの視聴を進める。	国連動画 PPT p.7-8 ワークシート1
0:23-0:33 (10分)	【導入3】	What world do you want in 2030?	SDGsが目標とする2030年について考えさせるため、「2030年までの私、私たち、社会がどうなっているといいか」問いかけ、ペアや小グループでブレインストーミングさせる。 ここの意見をオンラインアンケートに投稿させ、全体としてのアンケートの集計結果を閲覧する。	身近な質問をいくつか挙げ、学習者の想像を促す。あくまでも考えさせるきっかけづくりとして行いが、一部の質問は授業後のアンケートでも聞いているので、比較も可能。	PPT p.9 ワークシート1 (裏) Survey Monkey
0:33-0:40 (7分)	【展開1】	17 Goal Logos?	文言の入っていない17のロゴを提示し、それぞれのロゴが何を意味するのか考えさせる。スライドを使って、いくつかの質問を投げ、何人かに答えさせる。	17の目標のロゴは、映像等の中で既出ではあるが、ここで初めて明示的に紹介し、意味を考えさせる。	ワークシート1(裏) PPT p.10-16
0:40-0:47 (7分)	【展開2】 ジグソー法:個別	Knowing about your SDG?	UNIによる紹介文を配布し、第一印象、興味のあるもの、偶然手前にあったもの等を順不同で1枚ずつ手に取らせる。 ワークシート2を配布し、表にある3つの質問に注目させる。タスクを説明する。学生は、手にした紹介文とワークシートのゴールを照合し、紹介文をスキムリーディングし、自分のゴールについての3つの質問の答えを文書から見つけ、個別にワークシートを埋める。	できる限り、近くに座った同じがクラスの学習者が同じゴールのプリントを取らないように配布の仕方を配慮する。 時間制限を設ける。また、じっくり読み込むことではなく、必要な情報をハッと見つけるスキムリーディングの読解ストラテジーが求められていることを説明する。じっくり読むのは、各クラスに戻ってからまたは、自宅学習で。	PPT p. 17 UN SDGs ワークシート2
0:47-0:57 (10分)	【展開3】 エキスパート班 グループ	Understanding your SDG further!	17の目標から自分が読んだゴールのステーション(ロゴをA3に拡大コピーしたもの)に行き、同じゴールについて読んだ者同士でワークシートを見比べる。 自分のステーションのロゴの裏に載せられた情報(アイデアブックの各目標の1、2ページ)を読み、エキスパートグループとして、担当ゴールについて他者に英語で紹介できるように準備する。	教室の雰囲気作り、及び各ゴールのステーションとして、A3の掲示物を17種類作成した。表は、ゴールのロゴ(UNICのホームページから無料ダウンロード可)をカラーで拡大コピーしたもの。裏は、アイデアブックの各目標の見開きの紹介ページの拡大コピー。上部のみセロハンテープで壁に留め、学習者がめくって読むことができるよう、裏面は上下逆さまに印刷する。裏面の情報は、対象者や目的に応じて、他言語や別の情報源からのもので可能。今回は、短時間での情報収集と英語での共有内容の整理という点から、日本語の情報が必要と考えた。	PPT p. 18 ワークシート2 掲示物: アイデアブック各目標の紹介ページ
0:57-0:70 (13分)	【展開4】 ジグソー活動 ペア	Exchanging information on SDGs	今日まだ話していない人(隣り前後に座っていない)クラスメートや他のゴールについて読んだ他クラスの学習者とペアまたは小グループを作り、お互いが知っているゴールについて英語で聞き、交換した情報を元にワークシート2の空欄を埋めていく。 制限時間内に、できる限り17個のゴールが埋まるよう促す。	活発な情報交換を促すため、各時間の1位2位には、賞品を後日与えると発表した。短時間であったため、全てを埋めることのできた学生はいなかったが、10以上埋まった学生に計4名に、SDGsについての書籍を後日贈呈した。また、終わらなかった分は、次週クラスに戻ってから継続してもらえよう担当教員に依頼した。	PPT p.19,20 ワークシート2
0:70-0:82 (12分)	【振り返り】 クロストーク クラス	How are SDGs related to each other?	クラス毎(11~15名)に集まってもらい、17のゴールの関係性について話し合う。クラスに1セット用意したロゴの並び方を考え、壁や窓、ホワイトボードに貼り、全体に発表する準備をする。終わったクラスは、記念としてクラス写真を撮る。	状況に応じて、各クラスの授業担当者にも介入してもらいましたが、ほとんどのクラスは学生中心にロゴの並び方を考えてくれました。インスタグラム等も流行っているので、違和感なく、進んでクラス写真を撮っていたようです。	PPT p. 21,22 各クラスにロゴ1セットとセロハンテープ

0:82-0:87 (5分)	【まとめ1】	What are this semester's goal assignments?	当該科目において前期後期に扱っている内容、及び多科目での学習内容が、SDGsに強く結びついているという点をスライドを使って紹介した。また、後期授業最終日に行う予定のポスター発表形式でのプレゼンテーション、その前段階として取り組ませるリファレンスサマリー(Annotated Bibliography)について、その要領と準備の仕方を例を見せながら簡単に紹介した。	本実践は共通カリキュラムを運用する英語科目の後期オリエンテーション(初めて本科目を教える担当教員もいたため、教員オリエンテーションも含む)の目的で行ったため、学年全体として共通で取り組む2つの学期末課題について、前年度までの例を見せながら紹介した。	PPT p.23-28
0:87-0:90 (3分)	【まとめ2】	What can you do?	もう一度文言なしのロゴを見せ、どのロゴに今自分が一番関係性を見いだせるのかを問いかけ、何人かに答えてもらう。 自分に何が出来るのか？考え始めてもらうため、吉本の「SDGsについて考え始めた人たち」の動画を流し、授業の結びとした。	当日、自然に出て来た例であるが、学習者の思考を促すため、実践者自身の気づき(なぜ、自分が教員をし、国際教養学部で働き、英語の教員をし、今ここでSDGsについての授業をしているのか？学生に対する願い等)も共有した。 授業がピコ太郎の動画で始まったので、終了時もポップな終わり方をしたいと考えたため。当日は、英語字幕の着いたLast French Flyを使用した。他にも多数のオプションあり。	PPT p.29 PPT p.30 「SDGsについて考え始めた人たち: Last French Fly」動画
授業後 (次週以降)	【振り返り】		各クラスに戻り、本時の振り返り学習を行う。アンケート2に答える。	本実践で紹介したアクティビティーの他、授業担当教員には、振り返り学習のオプションとして、いくつかのアクティビティーを提示した。また、最終的な学びのまとめとして、アンケート2を作成し、オンラインで答えてもらった。	PPT p. 31-36 アンケート2

実施にあたってのメモ

協働と自律的な学習を促すため、「個別、ペア、小グループ、クラス(11~15名)、他クラスとの交流、全体」といったように様々な形態でのアクティビティーを取り入れた。また、身近な関心と結びつけるためにポップな動画を使用したり、その他にも様々な形式で教材の提示を行った。イシューログ(Issue Logs)やポスター発表のテーマとしても本時の内容がヒントとなる旨、至る所で強調した。

本時は、今年度においては同科目を担当していない教員が、英語共通カリキュラムの基本概念(少人数、協働学習、内容重視、発信型課題)を埋め込みながら、前期から後期の移行・後期の学習内容のオリエンテーションをするという目的のもとで、学生の長期夏期休業後、後期の授業が再開された第1週に行われた。そのため、学部・英語チームへの実施予定を報告する他、同科目の授業担当教員に協力を要請し、使用教材やスライド、ワークシートの内容等について都度相談と情報共有をしながら実践の運びとなった。

当日は朝早くからの実践だったので、会場設営を前日夜に行った。また、ゼミの学生に協力してもらい、当日のビデオ・写真等、授業の記録を行った。

各授業担当教員(各時限5名)には、数日前までに実践で使用使用する教材類を渡し、当日会場に控えてもらい、出席カードの配布・回収と、資料の配布補助、アクティビティーにおける学習者のサポートを適宜行ってもらった。また、次週以降各クラス(少人数)に帰ってからの継続的な学びの提案をし、ほとんどのクラスは翌週、SDGsについての振り返り学習を実践者から提示された教材・アクティビティーまたは、担当教員がオリジナルに準備した教材を使って行ったようである。本実践は、本科目を今年度初めて担当している教員にむけてのオリエンテーションとしても機能したが、それよりもなお、教員同士の協働や情報共有の場をもつきっかけとなった点でも意義があった。

実践にあたっては、2種類のアンケートをオンラインで行ったので、今後の教育改善のための実践や研究に役立ていきたい。

1月末には、地球規模の課題についてのポスター発表会を行う予定である。

使用教材(ハイパーリンク付)

1. 授業デザインの発想に一部使用:

[World's Largest Lesson: What World Do You Want in 2030?](http://cdn.worldslargestlesson.globalgoals.org/2018/06/What-World-Do-You-Want-in-2030-Lesson-Plan.pdf)

<http://cdn.worldslargestlesson.globalgoals.org/2018/06/What-World-Do-You-Want-in-2030-Lesson-Plan.pdf>

ロゴの並び替えや問の立て方、気づきの促し方等の面で、本時の発想のエッセンスとなった教材。同教材のメインアクティビティーとして紹介されていた2030年のイラストを書かせる活動は、本時の時間・空間的制限、学習者対象の年齢から、省略。

[World's Largest Lesson: Family Activity Pack](http://cdn.worldslargestlesson.globalgoals.org/2018/03/PE003_Activity-Packv8.pdf)

http://cdn.worldslargestlesson.globalgoals.org/2018/03/PE003_Activity-Packv8.pdf

3ページ目にある“Activity 1: Can you guess what each of the Goals represent from the icons? Have a go together.”の目標の文言が入っていないロゴの並びは、17の目標が存在しているおりロゴがあるということ自体に注目させ、それぞれのロゴ(目標)が何を意味しているのか、学習者が感覚や経験から想像するのを促すという意味で有益であった。

2. 大学生向け教材として使用:

[国連広報センター\(UNIC Tokyo\)「持続可能な開発とは」\(動画\)](https://youtu.be/1c48vhokWlQ)

<https://youtu.be/1c48vhokWlQ>

SDGsの基本や特徴について短時間で理解してもらうため、上記動画を本時の前半で流した。本時では、日本語字幕付きの英語動画を使用した。英語字幕や字幕なし(英語)も存在する。また、クラスに戻った後の教材として、動画のスクリーンショットに書き出し、アカデミックワードのハイライトとその他の専門用語の註を入れた。PPTおよびワークシート上にディスカッションクエストをいくつか提示した。

[United Nations. About Sustainable Development Goals.](https://www.un.org/sustainabledevelopment/sustainable-development-goals/)

<https://www.un.org/sustainabledevelopment/sustainable-development-goals/>

例: Read More About Goal1

クリック→

[WHY IT MATTERS: POVERTY-PDF](#)

17の目標について、ほぼ同じフォーマットで、同じ内容(どのゴールについてか、なぜそれが大事なのか？どのように問題解決に関わるのか)をカバーしており、分かりやすい英語で書かれており、写真や見た目も学生の好奇心を起させる教材です。両面で1ページになるPDF文書なので、授業内で使い切れる分量で、差し込み教材としても使えます。本時では、スクリーンディングのアクティビティーに使用しました。同類の教材は他にもありますが、対象となる学習者の年齢や知的好奇心を考え、授業担当者との相談のもと、難しすぎずまた単純すぎない教材としてこのセットを選びました。

3. 学生の動機付けに使用(授業の始まりと終わり)

[ピコ太郎x外務省\(SDGs\)~PPAP~](https://youtu.be/H5I9RHeATi0)

<https://youtu.be/H5I9RHeATi0>

SDGsについては正式には初めて学ぶ対象学生であったので、まずは興味を持ってもらおうと思い、この動画を授業の最初に流しました。実践時には、「なつかしい?」「知っているPPAPと違う?」というような反応が多く見られました。SDGsについて何か答えてもらったからは、各クラスに戻った後のアクティビティーとして、「皆さんバージョンのPPAPを作って発表しあってもいいですね?」と提案しました。

[Yoshimoto SDGs Short Video: Last French Fly](https://youtu.be/jZNzVulufa8)

<https://youtu.be/jZNzVulufa8>

本時の最後にこの動画を流しました。「え?吉本までもSDGsについてやってるのか!」「他の動画も見てみたい」という反応が聞こえてきました。時間があれば、このような動画をクラスで作ってみるのでもいいかもしれません。

4. 英語での理解を日本語で補足する補助教材として使用:

[Think the Earth \(2018\).『未来を変える目標アイデアブック』](http://www.thinktheearth.net/sdgs/book/)

<http://www.thinktheearth.net/sdgs/book/>

当初、ジグソー法の主教材として使用を予定しましたが、英語科目ということで、最終的には、国連よりWHY IT MATTERSに差し替えましたが、有益な情報がイラスト付で分かりやすい日本語で書かれており、英語でのジグソーアクティビティーの前に学生の理解を母語で補完するために最適な副教材として、各ゴールステーションのロゴの裏側に印刷し、ロゴを裏返すと読むことができるよう、A3カラーに拡大コピーして掲示しました。

5. オリジナルに作成した教材:

授業用スライド(添付ファイル名: “SDGs Class Slides FINAL JI”)

ワークシート1(添付ファイル名: SDGs Video Transcript FINAL)

ワークシート2(添付ファイル名: “SDGs Jigsaw Worksheet FINAL”)